

昭和廿年四月拾四日

四一三 受信〇〇七四八 譯了〇九〇〇 電〇七六三九 作概  
譯始〇八二〇

第七艦隊 第七艦隊

聯合艦隊司令部・海上護衛總司令部・佐・鎮・鎮・警  
次官・支長

密符一二一〇五六番電 二分ノ三

各員深ク管艦隊重大任務ニ務ヘ協力一致有ラユル困難ヲ克服積極的ニ  
任務ノ達成ニ邁進シ以テ管艦隊編成ノ趣旨ニ副ハンコトヲ期スベシ。

（電信詳註 本電二分ノ二未着）

通八一三一 天二Bケ八（九八三〇心）佐二放 牛島（猿狩）

昭和廿年四月拾貳日

四 一二 受信 一三二一八 譯了 一三四〇 電 〇六六七三 作概 〇  
保安緊急 譯始 一三二二〇

● 鹿屋 航空基地 ● 種子島 航空隊



機密第一二二一四四番電

1034

發 中戸上等飛兵曹

宛 關東空司令

○七四〇燃料不足「キヤク」故障ノ爲種子島基地南方三軒ノ海岸ニ不  
時着人員異狀ナシ機体大破沈没船又ハ飛行便アリ次第歸投ノ豫定

通七五九九 才一五 (七八七五 KC) 一五五 GB 放 日高 (松井)

人

四 一 二 受信 一七五七 款了 二二〇番 〇七二番  
至急 款始 二〇〇〇 航作 既。

着 九三六空組巡邏隊 九三六空A

海護組 〇 二南道船隊 〇 各根 〇

機 密 第一 二二二七番電

第九三六飛空隊司令第一号  
當分、南磁探機、訓練基地、  
巡邏隊指揮官、磁探機、  
東三相船隊、由、  
南道船隊、  
訓練、

通 七七四五 号 一五七七 (一七五九) 尾崎 (陸軍)

1035

昭和廿年四月拾參日

四 一二 受信一九一五〇  
〇六八六一  
昭和十一年四月拾參日  
作動

緊急

無線機所用共通符號



一〇特根・一一特根各ト

四四掃卜・九三六空・掃四  
サンジャツク集合地管理官

機密第一二一五〇二番電

號 第二利艇長

一 敵機來襲ノ現状ニ鑑ミ西貢ニ於ケル補給危險ニ付十三日〇四〇〇  
サンジャツク岫南方ニテ護衛ヲヤメ利丸ト共ニ昭南ニ歸投十六日  
夕刻昭南着ノ予定  
二 燃料眞水殘額九管四日半

通七七七三 天二日ヶ六(一七五九〇) 一〇通 村尾(鈴ソ)

1036

正 一 二 受信一八二二 開始二二〇〇 譯丁二二三三 電〇六九四四 作 稿

昭和廿年四月拾日



● 五 基地航空部隊戦闘概報着信處所  
● 三 〇 根

ヤ ッ プ 航 空 基 地

1037

機密第一二一六五〇 巻電

戦闘概報

一 一 〇 〇 一 二 〇 〇 グラマン戦闘機一機單發(新型) 四機 PBY  
一 一 〇 〇 一 機九〇度ヨリ進入飛行場南側農場地帯投弾後九〇度ニ去ル  
其ノ他視界内飛翔水偵一機 PBM-1 一機ダダラス一機

三 戦果ナシ 被害陸軍側負傷一名

通七七五六 呂ニBラ十四(一七五一〇KC)三通 大石(様 澤)

作戰緊急

四二二

開始

二〇〇六

了二二一五

二〇六八七〇

昭和廿年四月拾參日

通作

不概



備

第七基地航空部總作

突城

命令通信監所・呂崎空  
各航空基地・宇佐空

無線通信所用共通符號

1038

機密第一二一六五五番電

第七基地航空部隊司令作第二二六號

二五二空一三三空關東空及七〇六空司令ハ原隊ニ復歸左ノ次期進出

四月十五日卜豫定一兵力ノ整備ヲ促進スベシ

六〇一空 零戰一八 爆戰九 毒星八

三五二空 零戰一八 爆戰九 毒星八

一三一空 天山一二

關東空 毒星夜戰一二 零夜戰八 各〇六空ハ進出兵力及時ニハ進

而令ス

通作八二二

呂一三五七(七八七五)(一八四〇) 岩佐(小川)

又

四一二 受信二二二四 轉丁二四〇〇 電〇六九八一  
開始二三三〇  
作概〇

昭和廿年四月拾陸日



● 厚木航空基地  
● 横濱航空基地  
● 航空艦隊口。通。東通。?

機密第一二一七一〇番電

通報 第十三航空艦隊司令官

一 UFB 信電令作第七八六號

第一空挺部隊指揮官に左ニ依リ挺身輸送ヲ實施スベシ

一 最近ノ時期晴空一機横濱昭南間

二 往航昭南行人員軍需品輸送復航搭乗員轉勤者輸送行動豫定ヲ關係各部ニ

通報スベシ。

通七九二九 呂一月廿七(日) 横通 岩佐(高橋)

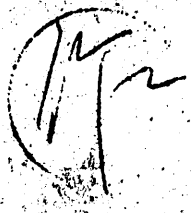
1039

四 一二 受信一九三六 譯了一九五八 電〇七〇八八五 航作 本橋〇

作 特別緊急

第五基地航空部隊作戰命令着信艦所

小 高 山 司 令 部



機密第一二一七四九番電二分ノ 一三

1040

昭和廿年四月拾參日

五 F G B 電令作第八六號

一 敵機動部隊ハ明日十三日引續キ臺灣東方海面ニ行動ノ算大ナリ

二 水爆隊ハ本夜零水二機ヲ以テ別令ニ依ル電探索敵ヲ實施スベシ

三 在零戰及艦爆特攻隊並ニ偵察隊形雲紫電各一機ハ明日〇六〇〇ヨリ

〇七〇〇迄特攻及戰果偵察即時待機トナシ置ケ發進ハ待令

四 石垣島部隊ハ右ニ進シ指揮官所定ニ依リ作戰スベシ

五 艦攻隊及陸攻隊ハ可動全力雷艦準備ナシ置ケ

六 明日敵機動部隊ヲ攻撃セサル場合ハ既令ノ計畫ニ依リ十三日夕及十

四日朝沖繩方面特攻總攻撃決行ノ豫定

通八〇八八・八〇八九 才十五(一一三四七・五五〇) 五 F G B 放

清水・關根(鈴三)



四 一二

受信機 二〇三〇  
電話 〇六九〇三

昭和廿年四月拾日

小崗山司令部

五 基地航空部隊臺灣方面飛行機配備基地

機密第一二一八一二番

1041

發 參謀長

明朝ノ作戰ハ左ニ依ラシ度

一、〇七〇〇迄ニ發進ノ命令ケル偵察隊以外ノ各隊ハ命令ヲクシテ待機ヲ

解キ速ニ分散秘所

二、特別攻隊發進後敵ヲ發見セザル場合ノ歸投基地ヲ敵艦上ニ來襲ノ狀況

ニ依リ機宜南部基地ニ遷定

三、特攻隊進發途上敵艦ト遭遇セザル如ク特ニ臺灣北端迂回ノ場合留意

コト

通七七九五 呂一〇七七一 一三三四七五(五) F G B 放 羽(金) 標(澤)

四 一二 受信二〇三一 譯了二二四〇 雷〇六九四二 作 概



父島特根戰艦着信處所

共

符

機密第一二二一八二五番通

發 母艦司令

戰艦機密第一九號 四月十二日

一 二三三〇三リ一七〇〇ニ五リ 二九約五〇機本島上空竝ニ周邊ニ

南下

二 戰果日一二九 一發破 獲霧ナシ

三 發射彈數(一門本均齊彈數) 二 高角砲通常彈五(一一五) 燃費

彈一八三三三)

通七八一六 日一〇分(一) 偵察一クスノキ(本)

1042

1941

109

秀

四

一一

三

受

信

二

二

五

三

了

〇

九

五

〇

電

〇

七

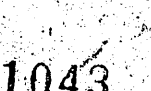
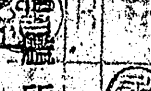
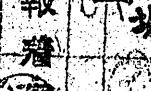
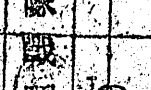
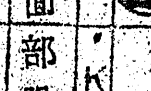
二

〇

五

作

櫛



機密第一二一八四三番電

R X 方面防備部隊戰闘概報 第四五七號 (十一日)

R X P 〇六二五 P 四 U 四機一二五 〇 P 四 U 一機偵察 〇八一 〇及一三二

〇 B I 二五 六 一四五五 P 四 U 二機陸軍地區爆撃 〇 B Z 〇六 〇 〇 P

四 U 四機 〇 B U 一二 〇 〇 P 四 U 二機銃爆撃 戰果隊 〇 B 四 U 二機 (内

不確實) 被害ナシ。

通七九五 一 呂二 B ラ十八 (四九四五 K) 八通放 加賀 (松山)

1043

昭和廿年四月拾參日

四 一二 受信二二三〇五〇  
開始二二三〇五〇  
了二二二一〇  
〇〇七七〇〇五五七

昭和廿年四月拾參日  
作機

緊急



高警

共符

海上護衛總司令部・海上護衛隊  
臺北在勤武官

機密第一二一九一八番電 二分ノ二

發 基隆在勤武官

一〇九二〇ヨリ二〇〇〇ノ間F四F六及英艦載機ヲ含ム約六〇機

三次ニ分レ侵入臺灣船渠附近及濱田總化會社附近二十數箇投彈セル

モ被害僅少ナリ 戦果 撃墜二機 捕虜一名 (英海軍中尉)

三一三二〇ヨリ約一時間ニ亘リPBM三 一機及グラマン二機鼻頭角

方向ヨリ侵入基隆港ヨリ野柳灣ニ至ル灣口海面ヲ十數回ニ亘リ高度  
約五〇米ニテ綿密偵察シタル後東方ニ退却セリ。

通七八六一四 呂一Bケ七(一三五二〇E) 高雄 山下川(川口)

1044

四 一二 受信二一五六 譯始二二三八 譯了二三四〇 電〇七一三二 航作本概〇

緊急

○ 鹿屋航空基地

○ 第七基地航空部隊・第三四三空

機密第一二一九五八番電



發 第三航空陸隊參謀長

一本職（航空參謀帶同）ハ十三日〇八〇〇鹿屋發木更津ニ派遣セシメラル

十三日一四〇〇ヨリ木更津ニ於テ左ニ依リ打合ヲ行フ

(1) 戰況説明

(A) 第三航空陸隊兵力再建ニ關スル事項

(B) 今后ノ一般ニ關スル事項

(C) 參集簡圖 各飛行隊長 整備主任以上通宣

彌七九〇七 四一五七七（三九三七五）一五五八放

渡邊（猪狩）

昭和廿年四月拾參日

昭和廿年四月拾參日

四一三

受信開始 〇〇一〇五〇〇

譯了 〇一二〇〇 電 〇七〇一八

作機 〇・航本

保安緊急

口ノ長崎縣三張所

停

大島防備隊 麻屋空地

機密第一二二〇三〇番電

發 佐藤少尉 (一一號)

宛 攻撃七〇八飛行隊麻屋 派遣隊指揮官

一五〇〇口ノ島西岸機体沈没全員無事 操舵機一離傷 特設見張所ニ

収容サレ

通七〇〇〇 才一四(三七三〇) 佐藤陸上大島部隊

日高(川口)

1244

1046



四一三

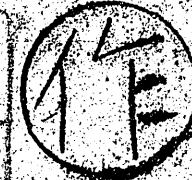
開始一四五〇

丁一五三三

〇七三八一〇

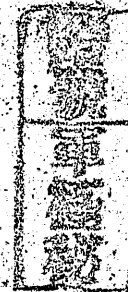
昭和廿年四月拾四日

至急



九三六 海軍總司令部東京通信隊 一、二各南遣艦隊

カムラン航空基地



機密第一二二三四一番電 二分ノ六二

局長	一課長	二課長	三課長	四課長	五課長	六課長	七課長	八課長	九課長	十課長

機密第一二二三四一番電

六航空隊司令第一號ニ依ル磁探機隊ヲ

海軍省安藤中尉

二派遣飛行機五搭乗員ハ舊カムラン磁探組下(名簿明日水偵便ニテ送付ス)

三派遣期日カツト(搭乗員集合ノ都合ニ依リテハ十六日)

四兵器整備員四名豫備磁探兵器一組補用品若干輸送機便ニ依ル

通八三〇五 天一〇ケ六(一七五九〇)十通 水谷(松山)

1048



下

四 一三 受信〇一三三 譯始〇一四八 譯了〇二〇三 電〇七〇三六 航作

作戰特別緊急



● 小松高航空基地・宇佐空  
● 鹿屋航空基地  
● 二一掃

機密第一二二三五 送電

發 七二一司令

宛 七二一足立少佐 七一一隊長

鹿屋機密第一二一七二〇 發電 關聯

一 明十三日櫻花攻襲ヲ實施セラル豫定ニ付小松基地ヨリノ送出發ハ鹿屋ニ直行セヨ

二 右飛行機ノ不足櫻花部品兵器ハ宇佐ヨリ送出發ニテ空輸セヨ

通八〇三三 於十三(四七四二三七) 仙波(森) 田(

1247

昭和廿年四月拾陸日

1049

急

傍

四 一三

受信 〇五四二  
開始 〇六〇六

了 〇六五五 電 〇八一・一六

作 概

出 水 航 空 基 地

一 機 動 基 地 航 空 部 隊

八 基 地 航 空 部 隊

機 密 第 一 三 〇 三 三 〇 番 電 二 分 一

出 水 部 隊 陸 攻 隊 戰 團 無 報 第 一 號 ( 四 月 十 二 日 ) 當 隊 陸 攻 一 式 六 機 ( 官

給 基 地 〇 〇 一 九 六 式 二 機 ( 出 水 基 地 〇 〇 一 五 三 〇 〇 〇 〇 〇 〇 迄 )

各 發 進 伊 江 西 方 海 面 敵 船 擊 擊 一 九 〇 八 〇 〇 〇 一 九 四 五 迄 終 了 二 二 〇

〇 〇 〇 〇 〇 迄 出 水 基 地 歸 着 セ ル モ ノ 一 式 二 九 七 式

一 電 信 課 註 本 電 二 分 三 未 着

通 八 一 〇 一 呂 一 〇 七 一 〇 七 一 五 一 五 A P P ( 小 隊 )

昭和廿年四月拾六日

1050

昭和廿年四月拾日

四 一三 受信 〇七六一五 譯了 〇七五五 電 〇七一五五 作 概 〇

緊急 第七艦隊



海上防備隊口。吳鎮。吳防備戰隊

機密第一三〇三三六番電

1051

對馬海峽方面防備部隊電令作第二號

一、四月十三日 〇一〇〇頃敵機數機下關海峽東口部埼附近海面ニ機雷ヲ敷

設タル疑アリ

二、下關防備隊司令ハ速ニ海峽東口該當海面内ノ主航路及水道ノ掃海ヲ實

施スベシ

通入一〇六 天二Bケ八 (B) 吳 長谷川 (木) 下



四一三 受信一五〇

電〇八九七二

東作機在〇

昭和廿年四月拾七日

大海參一部。軍務司。聯合艦隊。支那方面艦隊。船司司令部(兵通)。各臨時地方在勤武官

各艦	各艦	各艦	各艦	各艦	各艦
A	L	K	工勇		
E					
J	共	赤坂			
G					
F					

機密第一三〇七三〇番電

發宛 參謀長

過般敵機雷作戦ニ因リ關門航行ヲ一時停止スルノ餘儀ナキニ至レル  
 處當時觸雷ニ依リ沈没又ハ大破ニ至レルハ小船艇ニ限ラレ中型以上  
 ノ船舶ハ中小破程度ノ被害ニ留マリタルニ反シ航行停止(連航遅延  
 )ノ影響ハ相當深刻ナルモノアル見込ナルモノノ如ク(敵機雷敷設  
 )直前直後ノ各十日間ニ於ケル關門通過五〇〇總屯以上船舶ハ一五  
 五隻對三八隻(生産及國民食糧問題等ノ現状ハ斯ノ如キ連航遅延ノ  
 再發ヲ許サザルモノノ如シ  
 道日一六〇〇三 天二日ケ八  
 (小澤了)(一)

1052

右ハ獨リ關門瀬戸内ノミニ限ラザルヲ以テ今般中央ニテ執ラレタル  
機雷見張掃海等ニ關スル措置ハ現地各部ニ於テ急速ニ之ヲ實施奉效  
スル如ク努メラルルト共ニ著シク進航遲延ヲ來ス虞アル場合一部船  
船ニ對シテハ清掃完了ヲ待タズシテ航行ヲ再興セシムルガ如キ方策  
ヲモ實施相成度

尙之ガ爲運輸當局ト密接ニ連絡シ以テ緊急進航ヲ要スル船舶ヲ選定  
シ又ハ配船ニ臨機ノ措置ヲ執ラシムル得ル如ク留意アリ度。



已一五 受信三三〇口 譯了二一〇 電〇八七〇〇 作概〇運本  
譯始三三〇

至急

究

共

行

1053

昭和四年四月拾六日

停

七艦隊口・各鎮・各警  
各地在勤武官聯合艦隊口支那方面艦隊口

船舶輸送

撥充中一三〇七三〇番官 三分ノ三

急速ヲシテ實施奏効スル如ク努メラルト共ニ著シク運航遲延ヲ  
来ス虞アル場合ハ一部船舶ニ対シテハ清掃完了ヲ待タズテ航  
行ヲ再興セシムル如キ亦策ヲモ實施相成度  
尚之ガ爲運輸當局ト密接ナル狀況連路ヲ以テ緊急運  
航ヲ要スル船舶ヲ選定又ハ配船ニ臨機ノ措置ヲトシ  
得ル如ク留意アリ度

電信課註 本電三命一六二末着

通九五〇八 天二四八(三八七五K)一K百斤B放

高井(川)也

四 一三 受 始 一三五〇 一三二五 丁 一五四〇 電 〇七三二六 通

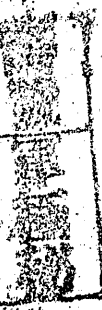
昭和廿年四月拾四日

至 急

東 通。横 通

父 島 通

母 島 警



機密第一三〇八〇三番

1054

發 父島通信隊司令

宛 大本營海軍參謀部第一部長 横須賀鎮守府參謀長

母島警備隊機密第一一三二一五番電

硫黄島敵電話傍受ニ依レバ十一日午前硫黄島附近海上ニテ事故アリシ

モフノ如ク左ノ交話アリ

十一日一二一五生在者一名舟ヲ急派セヨ

〇七四五

十二日〇六一二生在者ノ状態如何 尙十二日〇五四五 一三〇五各空襲

警報發令アリ

通八二五九 呂一Bケ七( B )横須賀 富永(小野田)

12

四 一三 受信一四三〇 譯丁一六五〇 電〇七三九二 作 概  
一六二〇〇 〇〇七三九三



横領戰團概報着信監所

機密第一三〇九四五番電 二分、二三

横領戰團概報(四月一二日)

一、一〇四五ヨリ一二〇〇間敵B一ニ九P一五一連合約一五〇機主力ヲ以テ

御前崎附近ヨリ關東地區ニ侵入立川附近ヲ爆撃後御前崎附近ヨリ脱去

リ其ノ一部ハ房總南岸ヨリ陸岸ニ沿ヒ北上鹽屋岬附近ヨリ福島地區ニ浸

入セリ

二、交戦状況

横須賀航空隊戰團機三機 第三〇二航空隊戰團機延六十四機彩雲一機

相模灘及駿河灣南部ニ配備シ之ヲ邀撃ス天候關東地方概々晴天ナリ

高度度迄ミスアラ

三、戰果撃墜P一五一 二機撃破B一ニ九 五機

四、被害(一)未歸還銀河一機 雷電一機 (二)不時着大破彗星一機 雷電一機 月光

二機

通八二九四、八三〇三 呂二B七七、B 横須賀 品田、大内(土 谷)



昭和廿年四月拾四日



人

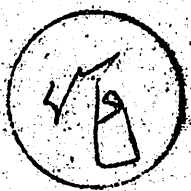
四二三 受信 一四五〇 譯丁 一五五〇 電〇七三七九 作機 〇

至 急

第七艦隊 P

下關防備隊

海上設衛總口・吳鎮・倉空・佐鎮



機密第一三一〇五三番電

通報 吳空 大浦派遣隊

七艦隊電令作第三號

下關防備隊司令ハ海上交通保護及對潛作戰ニ關シ G H B 電令作第四四  
六號ニ依ル 吳空 大浦派遣兵力ヲ指揮スベシ。

通八二九六 天二 B ケ八 ( B ) 吳 小宮 ( 小野 田 )

昭和廿年四月拾四日

1056

至 急

作

四 一三 受信 一七〇三七 譯了 一七二〇 電 〇七四二四 〇七四二五 作 概

昭和廿年四月拾四日

父島根戰鬪概報着信處所

父 島 通

機密第一三一〇二番電 二分ノ六ニ

發 父特根司令官

戰鬪概報 (四月十二日)

一〇六一四ヨリ〇八〇〇ニ至ル間内地攻撃ノヨリ二九本島周邊ヲ北上  
一二〇〇ヨリ一七〇〇ニ至ル間南下内一機乃至二機再度ニ互リ兒島  
及附近海面ニ銃爆撃一九二〇ヨリ十三日〇四四〇ニ至ル間七次ニ互  
リ敵夜戦ラシキモノ來襲二〇分乃至一時間ニ互リ周邊ヲ哨戒附近ニ  
投彈夜間ノ哨戒ハ概ネ弟島附近ヨリ南方ニ限ラレタルモ終夜殆下間  
隙ナク二機ツツ近海ヲ行動從來會テ見ザル程ニ激變ス  
三戰果 被害ナシ

通 八二九一 呂 一ヨケ七 ( 〇 ) 横須賀 神山、品田 (猪狩)

1057

昭和廿年四月拾五日

四 一四 受信一六二二 譯了一八五五 電〇七九二八 作 概  
開始一七五七

至 急 二 〇 聯 空

大 浦 里 空 基 地 ？

第八基地空部隊戰艦着信艦所・機動部隊P・高 通  
佐鎮哨戒部隊・第七潜水隊P・三二突擊隊・高 雄 警  
第九〇一空P・平安丸・P・ラ ン 空 基 地 ？ ？ ？

機密第一三一―一二四番電

四月十三日敵機來襲狀況

一三三〇頃B1二五 三二機岡山地區台南地區二〇箇所ニ投彈製糖

社其ノ他建築物等ニ若干ノ被害アリ

死海軍四陸軍一六民間死者六名。

九〇九七 呂一三ノ九一四五(C)高二放 渡邊(吉)田(

1058

四一三 受信〇四一五八 譯了〇五四〇 電自〇〇七八四三九 作 概

至 急



支那方面艦隊

東通・二道支隊除口・揚根▽・一二根▽・高通・海警部隊

機密第一三一三二番電 五分ノ二三四五

海通報 大官 大長 海南部隊 戰闘概報第一〇號

一島内敵匪討伐作戰綜合戰果

(1) 自五月十五日至三月三十一日

一戰果射刺殺一三九 俘虜一七鹵獲品小銃一三 艇銃一九 拳銃一

〇 戎克 (拿捕) 一

(二) 我方方損 戰死巡查一 巡査一 戰傷下士官一 巡査一 巡警二

(三) 戰回數九七回

通八五七一 八五七二 呂一〇七七 (四〇四五) (上海) 坂本 (川口) 金子

昭和廿年四月拾五日

(四) 三月中

(一) 戰果射利殺一九八 俘虜三八 投降隨順七 自決兵隊小銃二九

機銃五六 拳銃二一 六克(拿捕)四

(二) 我方方損喪 戰死巡査二名 巡警一名 戰傷下士官三名 兵一名

巡査三名 巡警二名

(三) 交戦一回

敵機來襲狀況十六日以降

(1) 比島方面を基地トスル B-125 B-124 及 B-129 ノ本島來襲ハ漸

次活激化シ就中二十一日 B-129 七機 B-124 四五機 P-138

八機 (三亞灣榆林港地區) 二十三日 B-125 一二機 B-124 三

機 (匯水灣地區) 三十日 B-125 一二機 (三亞灣榆林港地區) 郊

外 B-125 七機 (本島東部地區)

五分ノ三未着ノ箇所

昭和五年四月拾五日

二機 榆林地區 B-124 二回 二機 P-138 一回 一機 B-129 一回 一機

機 海口 洲島地區 B-124 六回 七機 B-129 三回 三機 P-138

二回 二機 八所地區 B-124 四回 四機 東北部 B-124 一回 四機 飛

行機 二回 二機

敵機返撃

(一) 戰果 墜 B-124 二機 B-125 二機 擊破 B-125 二

(二) 損害 戰死下士官一名 兵五名 巡査一名 巡警六名 戰傷下士官

三名 兵四名 巡査二名 巡警四名 十二糎高角砲三門 直撃彈二

依り破壊ス 一五〇糎探照燈一小破 其ノ他軍境界施設ニ若干ノ損

害ナリ 時艦潜一 驅潜時務艇一 海上トラツター 標的船二沈没

電信課註 本電五分ノ三未着

四 一三 受信二〇四七 了〇六二五 電〇八一六〇 作 概  
一五 開始〇五三五

昭和廿年四月拾六日



支那方面艦隊口

東通・二遣支艦隊口・一一根▽・高警・揚根▽・海警

機密第一三一―三二番電 五分ノ三

三十一日B―二四 九P―三八 三機(三亞楡林地區)ノ來襲ヲ見タ

ル外在支米空軍ト呼應一機乃至二機 以テ海口灣獨州島八港並ニ東部  
陣地地區ヲ偵察又市街兵舍港灣施設及近海航行船舶等ヲ統爆撃シアリ  
前記ノ外各地區來襲狀況左ノ通(合計)。

一電信課註 本電五分ノ二、四、五既配布

通九三三三 呂一Bケ七 (北七〇五K) 高通 山下(三石)

1061

昭和廿年四月拾四日

四 一三 受信一六三八  
調給一六一五  
誤丁一七一五  
電〇七四二二  
航作本〇  
作戰特別緊急



第一機動基地航空部隊天曉作戰命令着信處所

機密第一三一三一三七番電 二分ノ六二

一 K P Q B 天信電令作第一二四號

一 一兩日來敵夜戰空母ハ夜間喜界島ノ周邊近距離ニ行動シ終夜低空

偵察味方基地ヲ制壓スルト共ニ我ヲ夜間攻襲隊偵察隊ヲ遊撃シア

リ官部隊ハ今夜夜間雨成隊及攻襲隊ノ一部ヲ以テ之ヲ捕捉擊滅セ

ントス

ニ作戦實施要領左ノ通

(イ) 九三一部隊天山(電波探信機裝備)一九三〇發進 八〇一部隊

陸攻二〇三〇發進種子島南端基點一六〇度ヨリ二〇五度間進出

距離一八〇哩索敵觸接

(ロ) 七六二部隊夜間攻襲隊(兵力指揮官所定)ハ敵ヲ捕捉セバ直ニ

發進攻撃

八二三〇、八三四二、三一〇七七(九八三〇〇) 三一〇七七、三一〇七七



10 HV

六

作

四 一三 受信二一五 譯了〇一一五 電〇七六〇七 航作概本〇

至 急 東京、横須賀各通信隊 一〇方面艦隊 P

● 横濱、厚木各航空基地

機密第一三三三〇番電 二分ノ二

宛 大海戦力補給部長 横須賀軍需部長

通報 第百一航空戦隊司令官 第一〇八一航空隊司令

横濱航空隊機密第一二一七一〇番電ニ依ル晴空（横濱、昭南間往復）

左ノ真空管是非共搭載ノコトニ御取計ヲ得度 尙搭載力不足ノ場

合ハ平均ニ個數ヲ減セラレ度

UX 八〇。UN 九五四。UN 九五五。UZ 〇二。二A 〇五A。UY 八〇七。T 三一〇以上各一〇〇個 UX 二。三。UY 五六。BG 七五 通 八四四〇 八五四〇 呂一Bケ七 六二三五 七三〇 一〇通 關根（金森）

昭和十年四月拾五日

1264

個。 A 以上各五〇個。 X B 七六七 A。 T R 五九三 A 整流電球以上各三〇

三